復興支援ボランティア事業（第４期）活動報告

派遣期間：平成 23 年 9 月 16 日（金）～9 月 18 日（日）
派遣先：福島県相馬市
参加者：ボランティア 14 名、引率職員 3 名

【1 日目】9 月 16 日（金）

22：30
八王子市役所ロビーに集合し、壮行会が行われました。
小田島英一社協常務理事から激励の言葉をいただいた後、
参加者を代表してギター弾き語りで参加の井の頭さんが
活動への意気込みを宣言してくださいました。
出発前には、井の頭さんの呼びかけにより、
福島市が生んだ昭和を代表する作曲家 古関裕而氏代表作「鐘のなる丘」を全員で歌いました。

ソプラノ独唱で参加の染谷さんをはじめとした
美しい歌声と、ハーモニカの演奏が市役所ロビーに響き渡る
素敵な壮行会となりました。

22：45
さあ、相馬市へ出発です！！

【2日目】9月17日（土）

8：00

相馬市の活動拠点である
相馬市災害復興ボランティアセンター（相馬市総合福祉センター「はまなす館」）到着。

今回の活動は、社協の職員派遣を通じて交流がある
相馬市生活復興ボランティアセンターにご協力を
いただいています。

到着後、早速客席担当中心に会場準備が始まります。
会場の飾りや看板づくり、お茶を出す用意。
そして、子どもたちに配るためのバルーンづくりも。
和気あいあいと作業が進んでいきます。

昨日会ったばかりとは思えないチームワークです。

9：30

相馬市生活復興ボランティアセンター今野センター長によるオリエンテーション。
会議室での被災状況等の説明をしていただいた後、今回活動する応急仮設住宅に入居されている方々が被災された、原釜～相馬港周辺の現地視察に同行していただきました。

実際に被災地を見ることで、これから自分たちが活動する意味や目的について改めて考えさせられました。
また、これからお会いする皆さんの気持ちに一歩寄り添うことができた、大変貴重な時間でした。

12：00

「楽しんできてください！！」

センター長に声をかけていただき、センター出発！！

12：30

本日の会場である「大野台第一応急仮設住宅集会所」に到着。

9月半ばだというのに、30度を超える暑さのなか、バスから集会所まで手分けして荷物を運び込み、会場の準備を行います。

準備していると、「もうはじまるの？」「はいってもいいの？」と、どんどん住民の方が集まってきてくださり、あっという間に集会所は満席に。

13：15

さあ、活動開始です！！！

まずは腹話術による八王子の紹介です。
腹話術は相馬ではめずらしいらしく、皆さんとても楽しみにしていてくださったようです。
「かおりん」と「ルリちゃん」の楽しいやりとりに引き込まれていきます。

次はギター弾き語り。
生のギター演奏に、会場からは手拍子が。
音にさそわれて、子どもたちも集まり始めました。

会場が盛り上がってきたところで、ソプラノ独唱。
響き渡る美しい声に、皆さんじっと聞き入ります。

うっとりしたところで、次は音楽療法です。
「うんと楽しんで笑った人は、若くなるのよ！！」
というかけ声に、皆さんおおいに盛り上がりました。

体を動かした後は、お茶タイム。
お土産に持ってきた八王子銘菓「葵千人」「天狗サブレ」を腹話術の「かおりん」とくまの「くうちゃん」が紹介。
「くまがしゃべってる！」
「なんで？？」と、子どもたちのかわいい声。

お茶を飲みながら、お話をして、
お菓子を食べて…。
皆さんとても楽しそうです。

後半は、ギター弾き語りからスタート。
「古関メロディー」聴かせます。

そして最後は演歌です。
歌詞カードが配られ、皆さんも一緒に歌いました。
会場から、自称「相馬の北島三郎」さんも登場し、
盛り上がりは最高潮に！

終わりに全員で「夕焼け小焼け」を合唱し、楽しい会が終了となりました。
合計 52 名もの方が集まってくださり、現地の支援スタッフからは、
「こんなにたくさん集まったのは初めて！」とのうれしい声をいただきました。

「こんなに笑って、楽しかったのは震災後初めてだ。ありがとう。ありがとう。」と、涙を流しながら、
ずっと見送ってくださったおかあさん。
「また来る？」と、最後までバスの周りを離れなかった子どもたち。
皆さんの声や笑顔に逆に元気をいただいた初日でした。

【3 日目】9 月 18 日（日）

7：15

ホテルを出発。

バスの中で、昨日をふまえての今日の打ち合わせを行います。

「机の並び方はどうする？」

「昨日は椅子席が足りなかったね。」

「今日は暑いからお茶は何を用意する？」

客席担当中心に会場設定を確認。

最後の活動に向け気合十分です！！

8：50

北飯淵応急仮設住宅着。

30 度を超える真夏のような暑さです。
今日の会場は、通路が舗装されていないため台車が使えず、荷物を持ち集会所までを往復します。

さすが二日目。
準備もスムーズです。

さあ、はじまるぞ！！　　（記念撮影する余裕もありました）

10：00

活動開始。

客席は昨日より落ち着いた雰囲気で、じっくりと楽しんでくださっていました。

同行してくださっていた相馬市生活復興ボランティアセンター職員さんから、「子どもたちと話すきっかけづくりに教えてほしい～」とのリクエストを受け、出番待ちに、「バルーンアート講習会」を急きょ開催。

二日目は、来場された方々とゆっくりお話しすることが出来ました。
震災当日のことを次々話してくださる姿に、「体験したことを誰かに聞いてほしくなっている時期なのかもしれない」との感想もありました。

最後は「ふるさと」を、手話付きで合唱し、終了となりました。

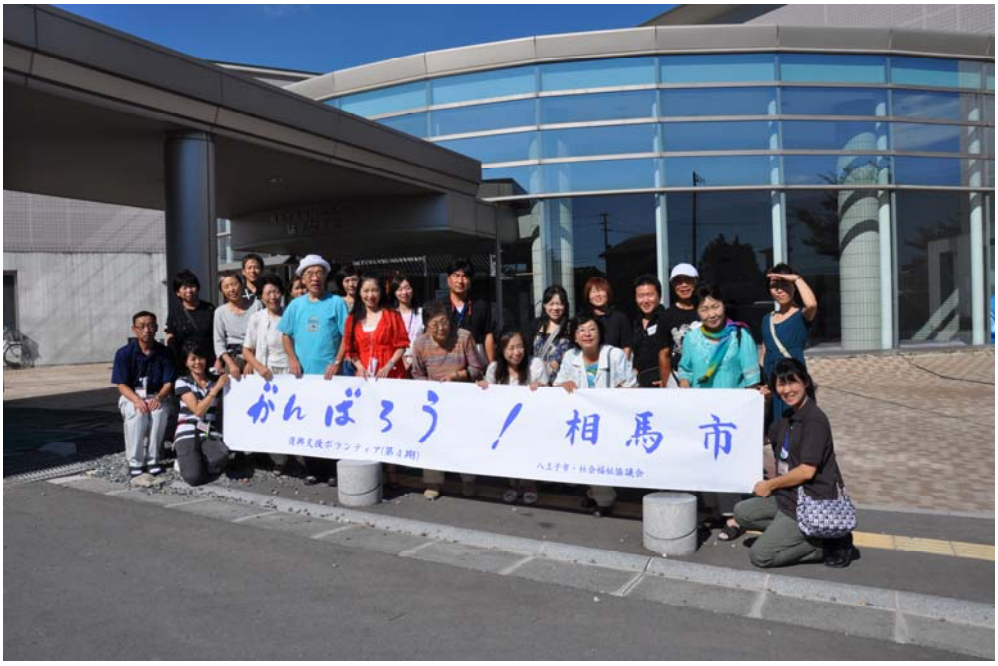
活動終了後も、会場の周りに見送りに残ってくださる方々が。
片づけをしながらのお話が続きました。
お別れするのが名残惜しくて「もう一日泊まっていきたいなあ～」なんて声も。
楽しい時間はあっという間でした。

相馬市生活復興ボランティアセンターに移動。
着替え、昼食。

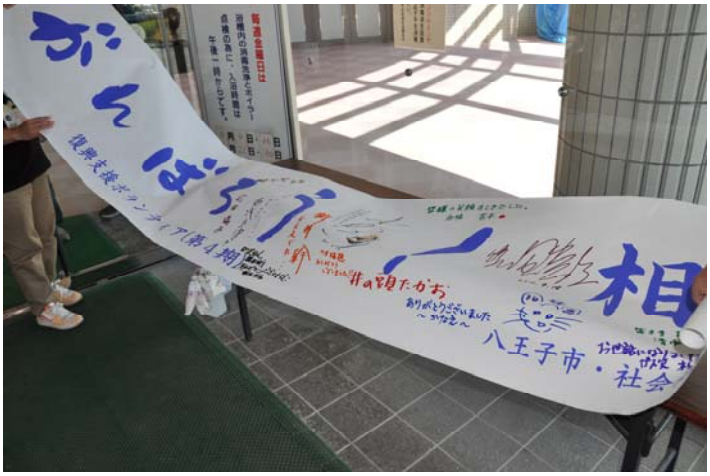
13：45

ミーティング

今回も 50 名を超える来場者となり、
「いつもこんなに集まらない。」
「皆さんとても楽しそうだった。」
とのお言葉を現地スタッフからいただきました。
名残惜しいですが、相馬市を出発です。



記念撮影用に取り出した八王子から持ってきた「がんばろう！相馬市」の横断幕。
それを見たセンター長が「ひとりずつメッセージを残してください！！廊下に飾っておきますから！！」
と声をかけてくださり、急きょサイン会（！？）に。



すてきな配慮に感謝！！（涙）でした。

今回は、演じる方、支える方、接する方、ともに実力のある方々の集まりで、素晴らしい活動内容でした。
また、それをあたたかく受け入れてくださった、応急仮設住宅にお住まいの皆さんに本当に感謝しています。
たった 2 時間余りの活動ではありましたが、
両日とも集会所から、どっと沸くような笑い声が何度も聞こえてきました。
きっと、今ひと時だけは、震災で受けたつらい体験やこれからの将来についての不安、
そうしたことすべて忘れていただくことが出来ているのではないだろうかと思いました。
「久しぶりにこんなに笑ったから、胸がほんとにスーっとした」と話してくださったおとうさんの言葉表情が忘れられません。
このようなひと時を、八王子からお届けできたことが何よりうれしいです。

第 4 期の皆さん、本当にお疲れ様でした。
ありがとうございました。

最後になりましたが、相馬市生活復興ボランティアセンターの職員の皆さん。
今回の活動は皆さんの協力なくしては、成り立たなかったと思います。
本当にありがとうございました。
3.11 直後から、被災者に寄り添い支援を続けてこられた皆さんのますますのご活躍を祈っております。
ご多忙だと思いますので、体調には十分気をつけていただきたいと思います。
引き続き、八王子から継続的な支援を続けていきたいと思っております。
ご協力、本当にありがとうございました。

文責：松重（総務担当）